

訪問リハビリテーションにおいて家事活動を行った脳出血右片麻痺の 53 歳女性

大越満，山田尚子，細野豊和，小野明子

(医)らぼーる新潟ゆきよしクリニック

【はじめに】 今回，退院直後から訪問リハビリテーション（以下，訪問リハ）において家事活動を行い，満足度が若干向上した一例を報告する．

【経過】 A さん，53 歳女性．平成 18 年 10 月に左視床出血による右片麻痺を呈した．回復期リハ病棟を経て翌年 4 月に自宅に退院した．退院時の ADL は Barthel index (以下，BI) 70 点で，訪問リハは OT と PT それぞれ 1 回ずつ，週 2 回実施した．3 か月後，移動と排泄が自立し BI は 80 点に向上した．OT では家事活動として，包丁で野菜を切ること，洗濯物を干すこと，掃除機がけ，テーブル拭きを行った．

【方法】 カナダ作業遂行測定（以下，COPM）を用いて「重要度，遂行度，満足度」を聴取した．訪問リハの初回時と，3 か月後に測定した．

【結果】 A さんが重要であるとした作業は，「掃除をすること」「買い物をすること」「食事を作ること」「洗濯をすること」の 4 つであった．「洗濯をすること」の遂行度と満足度は 10 点満点中いずれも 1 点から 8 点へ向上した．「食事を作ること」「掃除をすること」は，訪問リハで取り組んではいたが，遂行状況は変化せず満足度も低かった．

【考察】 A さんは家庭内では主婦としての役割があり，その役割を一部遂行できるようになった．訪問リハにおいて直接的に家事活動を行ったことが A さんの満足度を向上させたのか，今後さらに経過を追っていきたい．

表 カナダ作業遂行測定（COPM）の結果 *10 点満点

問題	重要度	初回評価		再評価	
		遂行度	満足度	遂行度	満足度
1. 掃除をすること	8	2	1	2	2
2. 買い物をすること	8	1	1	2	2
3. 食事を作ること	6	1	1	2	2
4. 洗濯をすること	6	1	1	8	8